

本質的な問い

わたしたちは、社会とどうかわかり、どう生きるのか。

単元名

わたしたちの町の安全 守り隊

児童生徒の実態

- ・情報を比較分類するなどして、適切に選択して活用することに個人差が大きい。
- ・身近な生活の中から課題を設定していくことに個人差が大きい。
- ・学習したことと自分の生活とをつなげて生かしていくことに課題がある。

目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

- ・情報を比較・分類するなど、探求の過程に応じた技能を身に付けることができる。（知識・技能）
- ・身近な生活や体験の中から調べてみたいことを見付けることができる。（コミュニケーション力）
- ・学習したことを、自分の生活の中に生かそうとすることができる。（自らへの自身）

単元を貫く問い

わたしたちの町をより安心安全にするために、自分たちは何ができるだろうか。

【探究課題 事件事故の防止のための町づくりとその取組】

【第3次】（15時間）

課題 町の安心安全のためにできることを実行しよう。

個別の問い

- ・町をよりよくするためにできることは何だろう。
- ・よりよい安全マップにするにはどうしたらよいのだろう。
- ・安心安全のために一人一人が大切にすべきことは何だろう。

学年間交流

（しかけ）

自分が知るだけでなく、よく知らない人にも発信するために、自分たちが作った安全マップを新一年生のために改善し、紹介する。

【第2次】（15時間）

課題 町の安心安全のためにできることを考えよう。

個別の問い

- ・安心して暮らすために、自分たちができる活動はどんなことだろう。
- ・どのようにしたら危険なところを伝えやすいだろう。
- ・調べたことをどのように整理すれば分かりやすいだろう。

校区に住む方

（しかけ）

安全のために交差点に立ってくださっている地域の方の思いを知り、安心安全な町にするために自分たちにもできることがあることに気付く。

【第1次】（5時間）

課題 わたしたちの町ってどんなところかを知ろう。

個別の問い

- ・焼山はどんなところなんだろう。
- ・安心して安全に暮らせるのだろうか。
- ・だれもが安心して暮らせる町とはどんな町なのだろう。
- ・どんなところが安全でないのだろう。

地域探検

（しかけ）

実際に町探検に行ったり、交通事故が起きたことのある場所の写真を見たりして町の安全に目を向ける。

見直しポイント

探究的な学習の過程に沿った単元構成

- ①単元を通して、資質・能力を育成する「探究課題」等を設定しているか
 - ・解決の道筋がすぐにはわからない課題や、一つの正解が存在しない課題となっているか。
 - ・児童生徒が日常生活や社会に目を向け、解決したいと思える課題となっているか。
- ②児童生徒の思考を想定し、効果的な過程になっているか
 - ・活動をこなすだけになっていないか。
 - ・児童生徒から問いを生み出すしかけがあるか。
 - ・学習したことを表現する場を設定しているか。
- ③サイクルとサイクルのつながりがスムーズとなっているか
 - ・第1次だけで構成していないか。
 - ・第1次のまとめと第2次の課題設定がつながっているか。